

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和5年11月1日
(2023)

第131号

■表紙	1
■研修報告書・和光園研修を終えて	2～3
■有屋町内会節踊り(八月踊り)	4
■七夕飾り	5
■敬老祝賀会	6
■親睦ゲートボール大会開催	7
■個別レクリエーション(市内散歩・買い物)	8

■個別レクリエーション(市内の海岸にて)	9
■国立病院総合医学会に参加して	10
■BLS・ICLS研修を終えて	11
■業務継続計画(BCP)策定研修に参加して	12
■Happy Halloween	13
■NST News Letter	14～15
■診療統計・新人紹介	15
■創立80周年記念式典のご報告とお詫び	16
■人事異動・和光園日誌・編集後記	16

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。

奄美和光園は本年度、創立80周年を迎えます。

猛威をふるった新型コロナウイルスの取り扱いが5類となり、これまで自粛していた園内の各種行事を開催できるよう動きはじめました。少しずつですが入所者の暮らしも戻りつつあり、以前のような地域の方々との交流を望んでおられます。これから先も奄美和光園は地域の方々と結のこころを紡ぎ、つながりをより一層深め、地域開放に向けた取り組みを推進したいと思います。

80周年



基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

奄美和光園の研修を終えて

今回、1ヶ月という短い期間ではありますが、研修を受け入れてくださりありがとうございました。

和光園は、急性期病院とは異なり、慢性期病院の役割を担いながら入所者の生活に寄り添いQOL向上を目指す施設であり、入所者との距離の近さを肌で体感することができました。また、普段は医療業務において、チーム医療のリーダー的立場から処方や指示を出していましたが、医療職を含めた他職種の実際の仕事内容や考え方に触れる機会は少なく、大雑把なイメージでしか理解していませんでした。シャドーイングをしたことで、その職種の方々が求める医師の指示出しの仕方やコミュニケーション能力の必要性を改めて実感しました。

研修外では、台風の影響で食糧・医療品が簡単には手に入らない離島生活の厳しさ

や舟漕ぎ大会出場により奄美の伝統文化を体感することができました。プライベートでも暇さえあればダイビングをして奄美大島の美しい景観や海景色を堪能し、最終日には和光園で上位を争うレベルに日焼けしました。

今回の研修では、離島医療・生活に密接に関わることができた上に今後の医師人生に生かすことのできる様々な経験を積むことができました。地域医療をこの奄美和光園で過ごすことができて良かったです。

最後になりますが、今回の研修に携わって頂いた方々、本当にありがとうございました。

相模原病院 研修医 平野 勝

地域研修の1ヶ月を振り返って ～笑顔あふれる奄美和光園！～

奄美和光園で9月いっぱい地域研修として入所者さんと職員の皆さんと過ごさせていただきました。この1ヶ月を思い返すと、あっという間でありながらも新鮮で密な日々であったと感じています。

研修が始まり、まず印象に残ったのは入所者さんと職員の皆さんとの親密さです。入所者さんが少数であるということを差し引いても職員のどなたもが入所者さんと頻繁に交流し、生活全体の様子を詳細に把握していることに驚かされました。日々関わる中で感じ取った変化を共有し合うことで、切れ目のない入所者さんへの生活の支援を行えているのだと感じました。医療の現場において、医師という立場からでは患者さんのことを臨床症状や検査結果などのフィルターを通して診てしまいがちです。

まず何よりも大切なのは、「その人そのもの」を診るという心構えであることに気付かされました。

そして奄美和光園最大の魅力は、入所者さんたちが「自分らしく生きる」ことを何よりも尊重し、支えていこうという信念が園全体に浸透していることだと感じました。それを達成するために、職種を超えて職員の皆さんが入所者さんたちに対して真心と創意工夫を持って、充実した日々の生活を送れるように全力でサポートされている姿勢には大きな感銘を受けました。そしてその努力の賜物とも言えるでしょう、入所者さんを中心に咲く笑顔の花が園全体を美しく彩っているように感じました。その笑顔の輪の中に私自身も入れていただけたことで、ささやかながら皆さんの日々の生

活の刺激と活力となれたならこの上ない幸せです。

奄美大島という地で過ごすことが出来たことも私にとって貴重な経験でした。突き抜けるような青さの空と海、突然のスクールと雨上がりに舞い上がる温かな地面の匂い、初めて口にする島料理、ハブに気を付けながらあるく夜道…島では当たり前なことも自分にとってはどれもが新鮮で、毎日が発見の連続でした。また、職員さんにサップサーフィンを教えていただいたり、入所さんの出身地である徳之島にフェリーで出掛けたりと園での出会いをきっかけに多くの経験にも恵まれました。

入所者さん、職員の皆さんと過ごし語らう日々の中で、多くの学びと元気を頂きました。

た。お別れのご挨拶にうかがった際に「またいつでも遊びにおいで」と入所者さんから口々に声をかけていただいたことがとても嬉しかったです。私自身にとって奄美大島が、帰れる場所のある「ふるさと」のような特別な存在になったような気がします。この1ヶ月間の経験を糧に、医師として成長した暁には再び奄美大島に、そして奄美和光園で皆さんの素敵な笑顔に再びお会い出来ることを楽しみにしています。

この度は大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

相模原病院 研修医 山崎 健

研 修 報 告 書

この度は、お忙しい中研修の機会を下さり、本当にありがとうございました。

今回の研修では、ハンセン病療養所の実態と職員の役割、多職種連携、離島医療について、身をもって学ぶことができました。

ハンセン病を患った方たちの生活史をはじめとし、園自体が「家」としての暮らしの場であるという実態、療養所職員の、一般的な病院での管理者的役割ではなく時には家族のように生活を支えるサポーター的役割を果たしているという実情について、実際に目で見て声を交わすことで実感することができました。その特殊性から教科書や数時間の見学では現実感すらわかないような場所であり、高齢化も進みゆく中で、このように1か月間研修させていただいたことは大変貴重な経験となりました。

そして、これまでは文面上のやり取りしかしていなかった、もしくはそういったやり取りすらなかった職種の方たちに付いて回る機会もいただきました。施設なるものがどのように支えられ、どれだけ工夫が凝らされて成り立っているか、ほか、どのよ

うな連携を求められているかについて垣間見ることができました。これからは積極的に他職種の方々へ目を向け、足を運び、また、私自身も医師として関わりやすい存在であるよう身を正す思いです。

さらに、奄美大島ならではの台風被害、離島特有の輸送問題や行事・食文化についての知見を広げ、美しい海、自然の豊かさや人のやさしさにも触れることができました。はじめは一人暮らしについての不安を抱えてやってきたのですが、孤独を感じる暇もないくらい充実した日々を過ごさせていただきました。

相模原病院に戻った際には、この1か月のことを後輩たちに伝え、また、山崎先生や平野先生とも思い出話を咲かせます。次は異なる季節に来ようと思うので、再訪の際にはご連絡させていただけたらと存じます。

相模原病院 研修医 西山 咲江

有屋町内会節踊り（八月踊り）

4年ぶりの踊りで奄美和光園で踊りを披露させて頂きました。

今回は1箇所のみでしたが、20年前は本館事務所前、ゆらいの郷（旧不自由者棟）前、高倉前での3箇所での踊りでした。本館前では、職員の官舎会の皆様が参加され、ゆらいの郷前では、入所者が大勢集まって有屋町内会の踊り連を待っていました。また、高倉前では、入所者の皆様が「お華（寄付金）」を準備して待っていらっしゃいました。六調の時には大勢の入所者が踊っていたことを思い出されます。

今では入所者の皆様も少なくなりましたが、有屋町内会は和光園の存続している間は八月踊りを披露させて頂きたいと思っています。

最後になりましたが、八月踊りを受け入れて下さった馬場園長には、感謝の気持ちで一杯です。また、来年も宜しく願います。

有屋八月踊り保存会 保 初男（給食）

8月26日（土）17時から、不自由者棟の玄関前で有屋町内会の方々による八月踊り（節踊り）が開催されました。

新型コロナの影響もあり、ここ3年間は中止となっていたため、私自身初めて八月踊りを見物させてもらいました。八月踊りは奄美の伝統行事で、五穀豊穡への祈りと感謝の気持ちを捧げ祝福を願う祭りだと言われており、集落ごとに各家々を回り、老若男女が円陣を組んで三味線と太鼓に合わせて踊ります。踊りの内容やかけ声も集落ごとに特色があり異なっております。

今年4年ぶりの開催ということで、園内に事前にお知らせしていたこともあり、

土曜日の夕方にも関わらず入所者、職員の皆さんに大勢お集まりいただき、始まりを今か今かと待ちわびていらっしゃいました。

不自由者棟玄関前に町内会の踊り手の皆さんが到着されて、三味線と太鼓、唄がはじまり、たくさんの踊り手の人達で熱気に包まれました。

おかげさまで、踊り手の皆様より夏の暑さを吹き飛ばす元気を与えていただきました。

福祉室長 高橋 貴博



七夕飾り ～ 恵みの雨に願いごとを添えて～

奄美大島では、旧暦の七夕～お盆のお迎えに合わせて七夕飾りをします。ご先祖が住まわれていた家に迷わず帰ってこれるように、家族が大事にされている行事です。私たちは、今年も旧暦に合わせ8月22日から8月28日の7日間に七夕飾りを行いました。

今年は、大きな笹4本を病棟前と不自由者棟の入口前、売店の前、朝日寮と4ヶ所に設置しました。小さな笹の16本は、それぞれ入所者の部屋の前に飾りました。どの笹も可愛らしく、風が吹くときれいになびいて素敵でした。皆さんの熱い願い事も天まで届くことを祈りました。

残念なことに、飾った当日から大雨になり、七夕飾りの半分程が流れてしまいました。入所者さんに「残念ですね」と言うのと、「必ず雨が降るものだ、七夕流しだか

らね。」と笑っておられました。聞けば奄美では七夕に必ず雨が降り、そして飾りは流れていくものだそうです。それを『七夕雨』といい、他の入所者さんも同じようなことを言われていました。飾った7日間の間にも何度も雨が降り、その都度に七夕飾りが流れ、最後には笹がハゲてしまうのではと思いました。ですが、入所者さんがその姿を見て当然のように、笑って見ておられる姿が印象的でした。それは、昔から伝わる言い伝えであり、習わしだと実感しました。今後も大切に七夕飾りを繋いでいきたいです。

看護サービス委員会

病棟 介護員 小松 呉穂



敬老祝賀会

令和5年9月14日(木) 13:30より、奄美和光園講堂にて、令和5年度敬老祝賀会が開催されました。

これは、高齢の入所者の皆さんに敬意を表し、長寿のお祝いをするとともに、入所者の皆さん、職員、地域の皆さんの親睦を深めることを目的として、長年開催されてきたのですが、コロナウイルス感染対策で開催できない2年間がありました。

昨年度からは、規模を縮小し、園内のみで実施していましたが、今回は、一部来賓の方をご招待して開催することが出来ました。

記念式典では、馬場園長の挨拶、奄美市長の祝辞、敬老祝金・記念品の贈呈が行われ、その後、職員による祝唄、参加者全員での和光園歌の斉唱と続き、加納特命副園長の挨拶で締めくくられました。

式典の後は、お楽しみの祝賀会です。今回は、入所者の皆さん自ら出演される「余興」が多いのが特徴でした。Kさんによるカラオケ「365歩のマーチ」、Sさん、Hさん、Yさんによるカラオケ「みちづれ」、Tさんが熱唱されたカラオケ「落ち葉しぐれ」、Hさんによるカラオケ「別れの入場券」、いずれも大変な盛り上がりを見せました。また、あまみ保育園の子供たちから



お遊戯が披露され、あちこちから「はげ～、かわいい」「元気がもらえるや～」という感想が聞かれました。さらには、職員が「ワイド節」を披露し、会場が一体となって盛り上がったところで、闘牛が登場し、会場は、本場徳之島の「闘牛大会」のような熱気に包まれました。祝賀会の最後は、奄美の祭りでは欠かせない「六調」で、参加者全員で輪になって踊りました。その後、奄美市保健福祉部長のご発声で万歳三唱が行われ、今年の敬老祝賀会も無事にお開きとなりました。

敬老祝賀会を振り返ると、その目的は「高齢の入所者の皆さんに敬意を表し、長寿のお祝いをする」ことでしたが、逆に、我々が、入所者さんから元気を分けていただいたというのが、率直な感想です。

また、来年も、入所者さん、地域の方、職員、一緒になってお祝いできることを願っています。

敬老の方々、おめでとうございます。

福祉室

医療社会事業専門員 保 裕之



親睦ゲートボール大会開催

令和5年10月26日(木) 晴天の秋空の下、当園講堂にて看護サービス委員会主催の親睦ゲートボール大会を開催し、総勢50名が参加しました。

ゲームは入所者さんと職員合わせて5名ずつの5チームで対戦し、20分間(前半10分、後半10分)でボールをゲートに通過できた数を競いました。入所者さんの中には、以前に鹿児島県ゲートボール大会奄美代表として出場し、数々の優秀な成績を残された方もいらっしゃいます。今大会の数日前から大切にしまっておいたスティックを引っ張り出し、練習される光景もありました。「もう、うまく打てないかもよ」「立って打てるかなあ」と不安な声も聞かれましたが、本番のゲームが始まると選手宣誓で「頑張るぞ！エイエイオー！」と気合もバッチリ！！昔、活躍された思い出が蘇ってきたかのような真剣な表情に

なっていました。ボールがゲートを通過すると入所者さんも職員も一緒に喜び合い、職員の島太鼓の応援でさらに会場は賑わっていました。ゲートボール大会の締めは優勝チームへの賞状授与と入所者さんへ参加賞の手作りメダルが贈呈されました。入所者さんからは、「緊張したけど、楽しかった。昔を思い出したよ」との声も聞かれ、安堵の表情が見られていました。

今大会で使用した道具は全て職員の手作りです。看護サービス委員だけでなく多職種全体で協力し合い、心のこもった大会が開催できた事に感謝申し上げます。

看護サービス委員 治療棟 介護員

福崎 昭徳・奥田 美穂



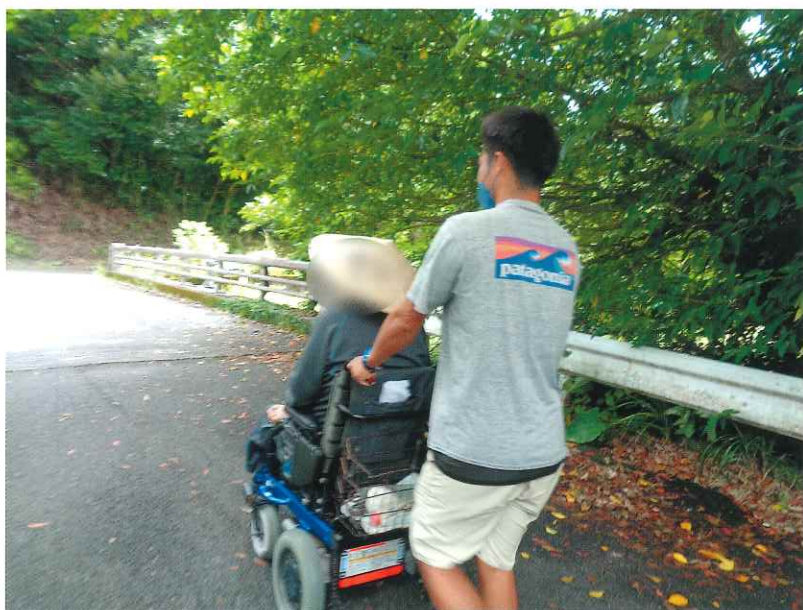
個別レクリエーション 市内散歩・買い物

涼しい季節となった秋、個別レクリエーションの最適の時期となった今日この頃。入所者さんと職員は園をとびだし、近辺の町内へ散歩と買い物におでかけスタート！暖かい陽ざしや風を感じながら積極的に電動車椅子を運転する入所者さんの姿はかっこよく意気揚々として、普段みられない元気な表情に私たち職員もわくわくしました。

「ここは、通ったことがない道」「ここは畑ばかりだった」と行き来の道中、昔と変わった風景に入所者さんは興味深々なご様

子でした。買い物先や立ち寄った場所では、思いがけない馴染みある人達と出会い、会話を花を咲かせた入所者さんの笑顔は今日の最高の笑顔！木々やさわやかな風、自然の気持ちよさを感じられたよい時間でした。これからも、日々の生活の中で、朗らかな笑顔をすこしでも引き出せるように支援していきます！

病棟 看護師 最上 直子



入所者の希望に合わせた園外レクリエーション 市内の海岸にて

以前より「海に行きたい」と入所者さんが話されることがあり、その思いを叶えることができないか福祉室と連携を図りながら計画を立てました。目的地は、山の緑に囲まれた砂浜のある市内の海岸です。当日は晴天に恵まれ、入所者さんが自動車を運転していた頃と同じ道を通ることで、車から見える風景に興味を持たれ、車内の会話が弾みました。

入所者さんは、海が見える故郷の出身です。出来るだけ海に近付ける事はできないか、福祉室職員のアイデアを活用しながら、足場で使用する木の板4本と車椅子

が方向転換できる正方形の板を準備しました。その結果、職員3名で協力しながら、波打ち際まで移動することに成功しました。波打ち際には、海風を感じる波音を聞きながら、貴重な時間を過ごすことができました。十年ぶりに浜に降りることができた入所者さんは、笑顔が多く大変喜ばれておりました。今後も、入所者さんの希望を叶えられるように努めていきたいと思います。

病棟 看護師 藤原 睦



国立病院総合医学会に参加して

この度、広島にて行われた第77回国立病院総合医学会に出席しました。私は、令和4年度師長研究会にて取り組んだ論文のポスター発表を行いました。多くの方が来場され、短い3分間の発表でしたが、当園で頑張っている職員の様子を発表できたことを嬉しく思いました。

今回は、当園から園長はじめリハビリテーション室、放射線室、医療安全推進担当者、会計班の方が発表しました。皆さん締切り間近までポスターや原稿修正にて頑張っておられ、それは堂々とすばらしい発表をされていました。国立病院機構職員の方の発表が多いなか、ハンセン病療養所の職員も研究的視点を持ち、日々の業務に努めていることを誇らしく感じた場でもあり

ました。

今回、慌ただしい移動のなか会場近くの前爆ドームを少し眺めることができました。世界的紛争に関する話題が絶えないなか、私のおかれている環境はとても恵まれています。行動の自由や日常における選択ができる環境、共に笑い合える周囲の方々の存在。秋晴れと前爆ドームに降り注ぐ光を見ながら、いつもパワーを戴いている方々に改めて感謝の気持ちでいっぱいでした。初心に戻った気持ちです。このような学会発表の機会を戴き、心より感謝いたします。

病棟 看護師長 窪田 マキ

	職 名	氏 名	演 題
1	看護師長	窪田 マキ	ハンセン病療養所A園に勤務する中堅看護師の自己啓発に及ぼした経験と支援
2	看護師	松元くるみ	国立療養所A園のBLSと緊急時対応訓練の取り組み～自作スライドによる事前学習を取り入れた研修～
3	理学療法士	西島 卓生	転倒歴のある入所者の安全な自宅生活に向けたリハビリテーションの取り組み
4	会計班長	岩橋 竜一	医療安全の視点から見た施設設備の営繕・補修活動
5	放射線技師長	高島 憲章	診療用放射線の安全利用研修に対する放射線教育の知識習得への取り組み
6	園 長	馬場まゆみ	ビリダグリップチンによるDPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡の1例〈続報〉



BLS・ICLS研修を終えて

今年で第8期目となるBLS研修と第2期目となるICLS研修が7月～10月にかけて行われました。看護課45名、コメディカル49名、総勢94名の職員に参加して頂き、毎年研修を受けている職員も1年経てば忘れていたことも多く、改めて知識・技術を振り返る機会となりました。

看護課では、今年初めてとなるICLSと合同のBLS研修を行いました。より実践に近い状況でBLSからICLSへの引継ぎまで行うことができ、研修生より「実

践的で活用できそうだった」「とても勉強になった」等の意見が聞かれました。和光園では急変場面に遭遇する機会は少ないですが、研修を積み重ねることで「もしもの時に」率先して動ける人が一人でも増えるよう、これからも職員一丸となり努力していきたいと思います。

治療棟 看護師 永 美保乃



※BLS（和光園 Ver）はAHA公認のBLS研修ではありませんが、BLSインストラクターの指導の基に研修プログラムを作成しています。

※ICLS（和光園 Ver）は日本救急学会公認のICLS研修ではありませんが、ICLSインストラクターの指導の基に研修プログラムを作成しています。

業務継続計画（BCP）策定研修に参加して

令和5年9月29日（金）に、業務継続計画（BCP）策定研修にWeb形式で参加しました。そもそも「BCP」とは、Business Continuity Planの頭文字を取ったもので、「震災などの災害によって損なわれる病院機能（診療）を、実行可能な事前準備と発災後のタイムラインに乗せた優先度に基づいた行動計画により維持・回復するとともに、発災によって生じた新たな医療ニーズ（すべてのフェーズ）にも対応するための計画で、従来の災害対応マニュアルを含み膨らませた広義のもの」です。

本研修の参加にあたり、事前課題にも取り組み、BCPチェックリストをもとに奄美和光園の現状を確認しつつ、研修に臨みました。今までのBCPは、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震など地震を想定したイメージでしたが、今回の研修では、水害想定や浸水リスクの有無なども含まれており、台風や豪雨の被害が想定され

る奄美和光園にとっても、大変有意義で勉強になる内容でした。また、7月20日（木）に実施した当園の災害訓練のシナリオも、長雨により園内を流れる有屋川の水量が危険水域に達し、売店横の恵橋付近（2つの川が1つに交わる所）より氾濫する恐れを想定して、一般舎・不自由者棟・病棟の入所者さんを迅速に安全な場所（管理棟3階）に避難誘導することを目的としていたので、今回の研修の内容にもマッチし、今後の災害訓練にも活かしていけるものでした。

今回のWeb研修には、複数の部署の職員が参加しており、今後の奄美和光園の運用にあたり、災害などから入所者さんの生活を守る上でも、とても重要な研修になったと思います。

庶務班長 毛利 安則

BCPチェックリスト				
大項目	設問	選択枝	追加回答 (1次チェック用)	根拠となる書類・エビデンス・数値等(例) (2次チェック用)
1 地域のなかでの位置づけ				
地域での位置づけ	あなたの病院は、地域防災計画や防災業務計画のなかで地域内での位置づけが明確ですか？	☐ はい ☐ いいえ		地域防災計画、防災業務計画等
2 組織・体制				
常設委員会	あなたの病院内には災害対応について審議する常設の委員会がありますか？	☐ はい ☐ いいえ		委員会議事録
	その委員会について規程がありますか？	☐ はい ☐ いいえ		委員会規程
予算	その委員会は、災害対応についての予算について審議する権限がありますか？	☐ はい ☐ いいえ		委員会規程、予算執行状況
3 災害対策本部				
本部長	災害対策本部長が災害計画等に明記されていますか？	☐ はい ☐ いいえ		災害対応マニュアル
本部要員	本部要員が明記されていますか？	☐ はい ☐ いいえ		災害対応マニュアル
本部長代行	対策本部長が不在や連絡が取れない場合、代行者は決められていますか？	☐ はい ☐ いいえ		災害対応マニュアル

HAPPY HALLOWEEN!

奄美にも冷たい風が吹き、外の景色も黄色や赤色へと色づきはじめ…子どもたちが楽しみにしている「ハロウィン」の季節が今年もやってきました。

子どもたちが一生懸命作ったオバケやコウモリ、ジャックオーランタンなどで装飾し、可愛くハロウィン仕様となった保育園では、「ハロウィンパーティーいつ?・ハロウィン楽しみ・魔女になるんだー」と毎日ドキドキわくわくの子どもたち。

さあ待ちに待ったハロウィン!! 可愛いアラレちゃんや魔女に変身してパーティー会場へ出発。入所者の方や職員の方々に「おかしくれないと いたずらしちゃうぞ」

と元気に声をかけたり、幸せなら手をたたこう、どんぐりころころ、やきいもグーチャーパーなどとっても可愛く大きな声で披露する事ができました。お菓子も沢山頂けて心も体もポッカポカな子どもたちです。

素敵な時間を沢山の方々と一緒に過ごすことができ、とっても楽しい思い出に残るハロウィンパーティーになりました。ご協力ありがとうございました。

次は何パーティーがあるかな??? と楽しみいっぱいな子どもたちです 😊😊😊

保育士 岸 円



NST News Letter

No.27

今回は誤嚥を防ぐベッド上のポジショニングについてお話します。

食事時のポジショニングは、本人の最適な姿勢を提供することにより、誤嚥を予防し食事の自立を通して健康回復や豊かな食生活行動につなげていくことにあります。ベッド上で仰臥位はリクライニング位0度、水平線を基準として60度前屈しているとリクライニング位60度です。リクライニング位は、食塊を食道への送り込みと喉頭閉鎖のタイミングを一致させて誤嚥を防ぐ体位とされています。また食塊の流入速度を遅くさせ、喉頭閉鎖遅延の代償とされています。リクライニング位30度は、患者自身で食事が目視できないため、食事介助が必要です。リクライニング位45度以上で自力摂取が可能です。食形態はリクライニング角度により選択調整が必要です。

まずはベッド上の寝姿勢を整えます。開始時はベッド周辺を片付け、テレビを消し食事に集中できる環境を整えます。ベッドはフラットにして患者は姿勢を整え正中に位置します。ズレ防止のためにベッド下の屈曲部よりヒップラインを上位置します。必要なら両脇にクッションを利用します。足底接地にはクッションや枕を利用して安定させることで姿勢の安定性が高まり体幹のずり落ちが予防できます。また腹圧が掛けられ嚥下力を高められます。

(リクライニング位 30 度)

- 口腔内の移送を容易にする
- 咽頭通過がゆっくりとなる
- 咽頭後壁を伝うため気管に入りにくい
- 咽頭残留の場合、梨状窩の貯留物が気管に入りにくい

(リクライニング位 60 度)

- 口腔保持が容易
- 咽頭通過速度がやや早い
- 重力により食道に食べ物が入りやすい
- 自力摂取が可能
- 視覚情報が容易



食事介助

介助は介助者が右利きでは患者の右側から、左利きでは患者の左側から行います。介助位置は45度程度の斜め前で目線を合わせるようにします。食事は見る・匂う・聴く・触る・味わうことなど五感を活用することが食欲を亢進させます。介助は、対象者の舌中央にスプーン等が入るようにします。逆手からではスプーンが正中に入りにくく、食物の取り込みや咀嚼が困難になります。水分は流入速度が固形物より速く誤嚥のリスクは高まるため注意深く行います。食事は自分で食べるのが一番食べやすいものです。食事の前後では口腔ケアをします。口の中を清潔にして唾液を分泌させ義歯があれば装着します。適切な口腔ケアとポジショニングにより経口摂取が可能になる人は良く見られます。

食後のポジショニング

摂食嚥下障害のある人は食事が終わると

満足感と共に疲労があります。食器を速やかに片づけ安楽な姿勢を取ります。その際のポジショニングは、まず身体が下方にずり下がらないように足を上げてから、ベッドの上体部分を下げ、そののち足を下げ、15度程度のリクライニング位にします。胃食道逆流の予防にもなります。続く背抜き・尻抜き・足抜きを行うことで安楽さに大きな違いがあります。

食事時のポジショニングとは口腔や咽頭腔の位置と形態を整え、食物の流れを変えて誤嚥を予防することです。頸部が後屈し不安定な姿勢は唾液誤嚥、摂食嚥下

機能低下を招き誤嚥や誤嚥性肺炎を起こす要因となります。適切なポジショニングは、食物の流れを整えて安全に食べることや不良姿勢により誤嚥のリスクを最小限にすることが可能となります。

理学療法士 山本 英樹



令和5年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療	分子標的薬	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	延患者数(人)	導入	維持療法
9月	52	188	240	21.8	11	40	3	3	0	1
10月	50	218	268	22.3	12	40	4	0	0	0

分子標的薬 導入：0名、維持療法：実人数1人

皮膚悪性腫瘍の術後管理、および植皮術のため入院1名（累計3日）

感染対策および業務調整による予約数調整と、予約患者の当日キャンセルにより例年と比較して患者数の減少あり

新人紹介

事務助手 立山 芳輝（たちやま よしてる）

9月19日から福祉室福祉係に事務補佐員として着任しました。

和光園・和光会の歴史資料の整理が主な業務で、歴史（資料）の中にある入所者の皆さん、職員の皆さんの日々の生活の記録、思いの記録と日々向き合っています。

和光園の歩み、奄美の人々の心を感じ、これまで紡いできた歴史をしっかりと後世につなげられるように業務にあたりたいと思います。また、福祉室において皆様のお役立てるよう日々の業務を学んでいこうと思います。

趣味・専門は野鳥観察や自然体験活動です。歩きながらきょろきょろしていた時は面白い鳥がいるのかも！ぜひ声をかけてください！

奄美和光園 OB・OG の皆様方へ 創立 80 周年記念式典のご報告とお詫び

拝啓 向寒の候 皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当園は昭和18年4月5日に厚生省告示第138号をもって名称を「奄美和光園」として創立され、終戦後は日本より行政分離された後米軍政府の管理下になり、その後昭和28年祖国復帰・厚生省への移管を経て、今年創立80周年を迎えました。

去る令和5年11月30日、当園講堂におきまして、創立80周年記念式典を挙行いたしましたのでご報告いたします。本来であればOB・OGの皆様方にもご臨席を賜るところでございますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、厚労本省・島内行政関係者、全療協等の限られた来賓をお招きし、規模を縮小して開催となりましたこと、お詫び申し上げます。なお、記念式典の様子は和光2月号にて皆様方に改めてその詳細をご報告いたします。何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

敬具

園長 馬場 まゆみ

人事異動

(令和5年9月1日～令和5年10月31日)

R 5. 9. 19

立山 芳輝

事務助手

採用(非常勤職員)

和光園日誌

(令和5年9月1日～令和5年10月31日)

- R 5. 9. 1 保育所監査
- 9. 14 敬老祝賀会
- 9. 27 第77回国立病院総合医学会リハーサル
- 9. 28 第13回アニマルアシストセラピー
- 9. 29 BCP策定研修(Web研修)
- 10. 18 新規採用薬勉強会
- 10. 20～21 第77回国立病院総合医学会(広島)
- 10. 25 第35回ハンセン病コ・メディカル学術集会リハーサル
第14回アニマルアシストセラピー
- 10. 26 親睦ゲーム大会
- 10. 31 ハロウィン(あまみ保育園)

編集後記

先日、夜中にふと空を見ると、とても大きくて黄色い満月が、ちょうど山の稜線から顔を出している所でした。調べると、10月の満月は「ハンターズムーン」と言い、鹿や狐が肥えて狩猟に最適になるため、そう呼ばれる様になったそうです。よく満月になると血が騒ぐと言いますが、満月の明かりで狩りがし易くなったであろう狩猟時代の名残なのかもしれません。自然を余すことなく利用していた大昔の人々のたくましさ改めて感心するとともに、文明成立以前の人々はどのような感性で自然を愛でていたのか、しばらく思いを巡らせました。

編集委員 井上 進